



被爆体験の講話をお聞きして

糸魚川中学校
横澤 美結



私は8月5日から7日まで3日間広島に行き、当時の様子や原爆にあった方のお話を伺いました。1945年8月6日の朝、広島市に投下された原子爆弾は、地上600メートル上空で炸裂し、爆心地から2km以内にいた12万人の方々が、その年の12月までに亡くなりました。生きている方々も、被爆の影響で発熱や下痢など様々な症状に苦しみ、また、町中の景色も変わり果て生活も一変し、絶望的な状況と化しました。1つの原爆が一瞬にして、人々の生命や生活を変貌させ、現代からは想像し難い状況となってしまったということが、被爆体験講話でのお話や資料館の見学を通して知ることができ、胸が痛くなりました。被爆者の平均年齢が80歳を超え、後世に伝えることが難しくなっている今、このような悲惨な戦争が二度と起こらないように、平和の大切さをしっかりと自分たちが伝えていく必要があると思いました。



戦争・原爆の恐ろしさ、悲惨さについて

糸魚川中学校
山崎 茉音



私は今回の広島派遣を通して、戦争・原爆の恐ろしさ、悲惨さについて学んできました。戦争のせいで犠牲になり、突然人生を奪われた人々の死と苦しみは無駄にはいけないし、あの原爆の地獄を二度と繰り返してはいけないことがよく分かりました。過去に起こったことを変えることは出来ませんが、笑顔が絶えない平和な世界を私たちが創ることはできます。

さらに、戦争を失くすためには一人一人が戦争の恐ろしさを理解することが必要だと実感しました。今もウクライナではザポリージャ原子力発電所や街などが砲撃されています。この戦争が少しでも早く終わることを祈り、広島に行って学んだことを家族や友人など、多くの人に伝えていきたいです。



平和記念公園・資料館を見学して

青海中学校
小泉 結生



私は初めて平和記念公園と平和記念資料館に行きました。

平和記念公園には、平和の鐘があります。そこには、国境のない世界地図が描かれています。これは、国境など関係なく、世界が平和で包まれ仲良くしたいという思いがこもっているからだと考えました。

平和記念資料館には、被爆をしてけがや病気をされた方の写真や原爆が落とされた後の広島の姿など、悲惨な状況を伝える展示物がたくさんありました。また、新潟に原爆を落とされた可能性もあったと知り、とても恐怖を感じました。

二度と同じ過ちを繰り返さないためにも、家族や友達に戦争の悲惨さを伝え、平和な世界をつくる努力をしなければならぬと思います。